

財団法人エイズ予防財団の 啓発活動について

財団法人エイズ予防財団業務部
普及啓発課長 中村 正

エイズは1981年にアメリカで最初の症例が報告された疾患で、日本では1986年の外国人女性の感染者等についての報道等により、いわゆる「エイズパニック」という形でエイズへの関心が全国に広がりました。その頃はエイズという病気に対する正しい知識がなかったために、未知の病気に対する恐怖がパニックとなって広がってしまったのです。エイズ関連の報道については、その後日本では血液製剤によるHIV感染、いわゆる薬害エイズが主流を占めた時期があり、和解が成立したことによりエイズに関連する報道の量が極端に減ってしまいました。エイズ予防には繰り返しメッセージを発信することが重要なことですが、マスコミの露出が少なくなると、関心が低下することとなります。

日本においてはHIV感染者・エイズ患者は増加傾向にあり、平成18年の日本におけるHIV感染者・エイズ患者報告数は1,358件で1日当たりに換算すると3.7人となり過去最高となっています。

HIVは誰でも感染する可能性のあるウイルスですが、感染経路が限られているので、予防をすることができます。予防するためにはまず正しい知識をもつことが一番重要です。ただし、エイズの正しい知識をもっている、その知識が実際の行動につながらなければ予防できません。具体的にはHIV感染予防にコンドームが有効なことは知識として持っているが、コンドームを使用しないで性交渉をもってしまおうという例などです。エイズ予防の啓発普及には知識を行動につなげるための工夫が重要となります。



レッドリボンライブ、フィナーレの様

財団法人エイズ予防財団は、昨年(2006年)の12月1日の「世界エイズデー」イベントとして、「レッドリ

ボンライブ」を開催しました。ラジオDJの山本シュウさんの呼びかけで、アーティスト、スポーツ選手、タレント等各界で活躍される若者に支持をされている方々が集まり、それぞれ自分の言葉でエイズ予防を訴えました。このようなメッセージの伝え方は、受けた方々の心に残りますし、行動に結びつくものと思われます。

当財団は公共広告機構(AC)の支援キャンペーンを受けてテレビ、新聞、ラジオなど多角的な広報を平成17年より展開しています。平成17年の「カレシの元カノの元カレを知っていますか」というHIV検査促進のCMはギャラクシー賞のCM部門の大賞を受賞しました。平成18年はバベットマベットの「うしくんのエイズ(HIV)検査体験レポート」が平成19年6月まで実施されました。平成19年の支援キャンペーンはGLAYのTERUさんによるCMが決定し、この7月から1年間キャンペーンが実施されます。TERUさんがHIV検査を実際に受けて、検査についてのメッセージを発信する内容で、大きな効果が期待されています。



渋谷での街頭キャンペーンの様子

6月1日～7日は「HIV検査普及週間」です。この週間は昨年創出されたものですが、2回目となる今年は「レッドリボンライブ」に協力してくれた絢香さんからのメッセージをFM局の協力で放送し、東京(池袋、渋谷、新宿)、名古屋、大阪で、山本シュウさん、松竹芸能所属タレントの皆さんのご出演によるライブトークとパンフレットなどの配布活動の街頭キャンペーンを実施しました。

これからは、6月の「HIV検査普及週間」、12月の「世界エイズデー」と2つの集中的な啓発普及を中心に年間を通して継続的な啓発普及を実施していくこととしています。